

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300291
法人名	医療法人 さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川91-3
自己評価作成日	平成 24 年 6 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 7 月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設の為、ご家族様からはとても安心するとの意見をよく聞きます。立地条件も良く、中庭にてゆっくりと過ごすこともできます。花を植えて、利用者様と一緒に水をあげたり、世話をしながら季節感を味わっています。中庭にて夏祭り等の行事を行っており、ご家族様も参加していただき、楽しい時間を過ごせるように努めています。イベントはご利用者様・ご家族・近隣の方が触れ合える貴重な機会なので大切にしています。消防訓練も定期的に行っており、ご家族の参加や近隣の方へ協力をお願いしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は平屋の建物で各ユニットからは中庭に出られる造りになっており、利用者のくつろげる空間となっている。ユニット間は自由に行き来ができ、利用者職員は家族のような親しい関係になっている。管理者職員は理念に沿って、利用者が穏やかで自由に過ごせるように日々の暮らしを支えている。地域の情報を得て積極的に行事に参加し交流を図っており、事業所が開催する納涼祭にも多くの方の参加がある。医療面においても母体である協力医療機関と連携が取れており利用者、家族ともに安心感が得られている。職員も勉強会や研修会に積極的に参加しケアの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目  
(評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

## 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 菜の花

(ユニット名) ひまわり

記入者(管理者)

氏名 武田 淳子

評価完了日 平成24年 6 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 毎日申し送り時、運営の理念を唱和し、実践につなげている。	
			(外部評価) 分かりやすい言葉で表現された理念は、毎日申し送り時に読み上げて職員全員で確認している。毎年の目標も決められており、理念に沿って利用者の日々の生活を支えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所周辺の方々と挨拶を交わしたり、地域の掃除を始め、学校の運動会等の行事にも、参加をさせてもらっている。	
			(外部評価) 自治会には入っていないが職員や家族から地域の情報を得て積極的に行事に参加している。近所の方が野菜等を持ってきてくれるような密な関係ができており、事業所が開催する納涼祭には地域の方の参加も多い。幼稚園との交流もあり、小学生の体験学習や高校生の実習も受け入れている。三味線等ボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症への対応等地域の方々の理解を得る為に、毎月菜の花便りを郵送している。また地域の行事にも参加し、交流を深め、理解をもって頂く様に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 事業所内での様々な取組みや、サービス状況を報告 し情報交換を行っている。地域行事内容についても情 報開示していただき利用者の外出支援に繋げている。 委員の方の意見を参考にし、サービスの向上に努めて いる。	
			(外部評価) 利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター及び 市の職員の参加を得て、同法人の小規模多機能の事業 所と合同で開催している。内容は事業所の状況報告、 勉強会や研修会の状況、意見交換等が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき、事業所内のサービ スや実績を報告・相談している。	
			(外部評価) 運営推進会議には地域包括支援センターの職員に加 え、今年度から市の職員も参加し意見をもらってお り、良い連携が取れている。市主催の勉強会に管理者 が参加し、市からは認知症の講演依頼を受けて、協力 関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外玄関のみ防犯上施錠しているが、本人・家族には納 得していただいている。職員も身体拘束についての勉 強会に参加しており、理解に努めている。中庭や各ユ ニットにも自由に行き来出来るようにしている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについてマニュアルを作り、管 理者や職員が研修会に参加するなど、正しく理解する よう取り組んでいる。玄関は施錠しているが、中庭に は自由に出ることができ、ユニット間も自由に行き来 ができる。利用者の状況に応じて拘束を行う場合は家 族の同意を得ている。外出時は安全のため必ず職員と 一緒に出かけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止マニュアルに基づき、職員一同十分に理解した上で日常生活のケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を通じて制度の理解をして、対応の仕方のマニュアルを作成し、活用すべき時に支援ができるように努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者・家族に理由等の十分な説明を行い、理解・納得・同意を得て行っている。不安や疑問点がある場合は時間をかけてご説明し、理解していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 匿名での投函の箱を設け、自由な意見を表せる機会を作り話し合いを行い、意見を取り入れるようにしている。	
			(外部評価) 定期的に担当者が利用者の状況を書面で知らせている。家族は週1回訪問に来る方が多く、話しやすいよう配慮している。運営推進会議でも意見を聞くなど、家族から意見や要望を聞く機会をできるだけ作り、出された意見は職員で話し合っサービス向上に活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員間でミーティングを定期的に行い、問題点等を出し合い、話し合いを行っている。管理者は職員の意見を話し合い、意欲の向上につながる様に努めている。	
			(外部評価) 長く勤めている職員も多く、職員同士も連携が取れており、管理者に話しやすい雰囲気がある。毎月の会議で意見を出すことができ、出された意見は検討し反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格をとることで、事業所としての質も向上するという事を理解し、事業所も資格取得を積極的に支援し、手当てという所で反映している。職員の昇給もあり、意欲が出るようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各職場の立場・経験や習熟度に応じて研修計画を立て実施している。研修費用の援助も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修や勉強会に出来るだけ参加し、同業者と情報交換をしたり、相互訪問等の検討をしている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 相談は家族の事が多いが、利用希望者ご本人の所にも職員が出向き、話をして関係が築けるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談時、家族の立場に立ち様々な声に耳を傾けて、信 頼関係が築けるように心掛けている。家族の思いや体 験等、多様な価値観を受け入れる様、努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 十分なアセスメントを行い、ケアマネージャーや他職 員とも相談し、判断するよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 一緒に過ごし、喜怒哀楽を共にして、利用者が孤独に ならない様、寄り沿い支えて信頼関係が築けることに 努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の面会時には十分気を配っており、気兼ねなく過 ごせるよう配慮している。菜の花便りの郵送と共に現 状の報告を行い、イベント開催時等には一緒に参加し て貰えるよう、声掛けを行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 個々の利用者の馴染みの人や場所を把握して、外出支 援を行ったり近況報告を行い、関係性が途切れないよ う努めている。	
			(外部評価) 利用者の今までの馴染みの関係を把握して、関係継続 を支援している。事業所での暮らしが居心地よく、新 たな馴染みの関係となってきた利用者も多い。馴染 みの場所への買い物等、希望に合わせて個別に支援 している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者個々の感情・価値観などを尊重し、共同生活が楽しく送れるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同法人の他サービスへ移行される利用者もおられ、本人・家族の経過をみて必要に応じて相談等支援を行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 家族や利用者本人の考え方、価値観を把握して職員全員が同じように理解し、希望に添えるように努めている。	
			(外部評価) 利用者の担当職員だけでなく、全職員が日頃の生活の中で気づいたことや利用者との会話で得た情報を記録し、一人ひとりの思いや意向を職員会議等で話し合っ て、共有している。利用者へのケアに活かして実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や利用者本人、また施設関係者等の情報共有の話を元にして、生活環境等を把握し、自分らしく過ごせることに配慮している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の流れの記録や申し送りを行い、アセスメントを行い、出来る力を発揮できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は家族、本人の意見を基本に、介護職員や他の職種の方々の意見も取り入れ作成している。定期的にモニタリングを行い検討している。	
			(外部評価) 利用者や家族の要望や意見を聞き、職員の意見も採り入れて計画作成担当者が介護計画を作成し、毎月モニタリングを行っている。3か月に1回見直しを行い、利用者の状況に合わせて変更もしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 計画に対するモニタリングを定期的に行い、日々の情報を共有し、計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 同じ法人内に、小規模多機能居宅介護事業所や介護療養型医療施設があり、状態に応じてスムーズに移行ができるような体制が整っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 幼稚園の訪問が定期的であり、楽しみにされている。地域の小中学校の運動会や文化祭や秋祭り等に参加し、楽しい時間が過ごせるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 契約時に家族に希望を聞き、かかりつけ医、主治医を 確認している。当事業所の場合、隣接する診療所の院 長を主治医に希望する方が多く、受診の支援は円滑に 行えている。他病院へ受診される場合も家族の協力を 得て情報の共有を行っている。	
			(外部評価) 利用者の多くが母体の協力医療機関をかかりつけ医と し、週1回往診してもらっている。歯科と皮膚科の医 師の往診もある。緊急時は母体の協力医療機関と連携 が取れるようになっており、利用者も家族も安心感が 得られている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者が適切な受診・看護が受けられるよう、利用者 の状態を把握し、申し送りを行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 病院関係者と必要な情報交換は行えている。また、連 携医療機関は同法人であるため、病院職員との関係作 りは十分出来ている。近隣の病院主催の勉強会にも参 加し、関係作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に家族に説明し、方針を共有している。家族か らターミナルケアご要望があっても、緊急時には主治 医の判断により、家族へ説明・同意を得て、入院時の 措置を取る事に対しても、理解していただいている。	
			(外部評価) 入居時に事業所でできることを説明し、利用者や家族 の希望に沿って看取りをする方針としている。看取り の経験もあり、利用者の状態の変化に合わせてその都 度話し合いをしている。職員は勉強会や研修会に参加 しケアの向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署職員による救急救命訓練を定期的に行っている。各種マニュアルを朝の申し送り時に読み上げ、職員全員が周知徹底できるよう努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回避難訓練（内1回は消防職員を派遣してもらっている）を行い、家族にも参加してもらっている。また、近隣の方にも協力を呼びかけている。	
			(外部評価) 定期的に夜間を想定した訓練も行っており、地域の方の協力も得られている。運営推進会議でも避難訓練について話し合いを行い、参加者からの意見を活かしている。事業所として地域に協力できることを伝えている。災害に備えた備品の準備もしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉使いには十分気をつけている。利用者のプライバシーが守れるように、入室時はノック、声かけを必ず行うようにしている。	
			(外部評価) 一人ひとりのプライバシーを尊重して支援を行っている。利用者の部屋に入る時は必ずノックし、トイレや入浴の誘導の仕方、オムツ交換時などにもさりげない配慮を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉が出てこない利用者に対しても、ちょっとした仕草で見極められるように、目配り気配りを行っている。また、筆談によるコミュニケーションも行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員は常に利用者優先という事を意識して、その人らしくを基本にその人に合ったペースで、支援をする様に心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の好みに合わせ価値観に添える様に気をつけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 配膳の準備や、おぼん拭きを手伝ってもらっている。いつでも温かい食事を提供（適時適温）して、食欲がでるよう努めている。	
			(外部評価) 献立は管理栄養士がバランスよく立てており、各ユニットで調理をしている。利用者の状態に合わせて食事の形態を工夫している。食事の時間は利用者の楽しみの1つになっており、完食される方も多い。水分摂取量もチェックして体調管理をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 法人内の栄養士が栄養のバランスを考え、メニューを作成しているので、必要なカロリーおよび、水分量は確保出来ている。（夜間の水分摂取量はチェック表にて個々の摂取量を記録している）	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る人は自力で歯磨きをしてもらい、出来ない人には職員が支援し、本人の能力に応じ、口腔ケアをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 可能な限りトイレで排泄出来るよう支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して、排泄の自立にむけた支援をしている。自分でトイレに行ける方は3人程度で、ほとんどの利用者はオムツを使用している。利用者の中には家ではオムツ使用していたが、紙パンツになりトイレに行けるようになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表にて排便の有無を把握し、運動や水分をすすめるなど予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じ入浴支援を行っている。拒否の原因を探り、無理強いさせる事なく時間をかけて対応し、入浴が楽しめるように支援している。	
			(外部評価) 入浴は午後の時間帯で、週3回は入れるように支援している。必要に応じてシャワー浴も行なっている。利用者によってはその日の体調で入らない場合もあるが、無理強いせずに対応を変えたり日を変更するなどし、個々に応じた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 基本的にその人に合った日中の過ごし方をしてもらっている。昼夜逆転の方には、日中なるべく起きて頂き、夜間は安眠出来る様、環境にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の服薬している薬について、職員は理解できており、薬情控えもいつでも見れるようにしている。副作用や注意事項を理解する努力をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者に出ることをしていただき、役割をもつていただくことで、自信につながるよう支援している。生活歴や趣味などを職員は把握出来る様努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) なるべく多く出かける機会を持てるよう家族にも協力をお願いしている。季節ごとに菜の花や桜を見学し、季節を感じる事が出来る様ドライブにも出かけている。また地域の行事にも参加し、利用者個々の生活歴や個人の楽しみ事ができるように支援している。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、地域の行事に参加したり近くへ買い物に出かけるなど外出を支援している。各ユニットから中庭に自由に出て、いつでも外気に触れ日光浴を楽しむことができる。お花見等には病院の大型車で、車椅子の方も一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 預り金のある利用者には、月に1回ご家族に収支報告をしたうえで、確認のサインをいただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙のやりとりは、自由にできるようになっており、職員はそれを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者に居心地よく過ごして頂くよう、また馴染みの空間になる様に、適度な飾りつけなど色々工夫している。照明も朝・昼・夕・夜を認識してもらえるように明るさに配慮している。	
			(外部評価) 共用空間は季節を感じられる花などが飾り付けられて、居心地のよい空間になっている。ユニット間の行き来もしやすく、各ユニットから自由に出られる中庭は、利用者にとって憩いの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者が安心し、居心地よく過ごせる場所、空間づくりを目指している。一人が良い時、皆と一緒に良い時など状況に応じてスペースづくりを工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 思い出の品や写真を持ち込んでもらい、本人にとって一番安らぐ場所として、居心地よく過ごせる様に支援している。	
			(外部評価) 居室は使い慣れた家具等が持ち込まれ、利用者の使いやすいように配置されている。季節の花や写真などお気に入りのものが自由に飾られている。掃除も行き届き、落ち着いて過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者自身で出来る事はなるべくしてもらい、リハビリ職員と情報共有し、心身の機能の把握をしている。安全で自立した暮らしが出来る環境になるよう、工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300291
法人名	医療法人 さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川 91-3
自己評価作成日	平成 24 年 6 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 7 月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設の為、ご家族様からはとても安心するとの意見をよく聞きます。立地条件も良く、中庭にてゆっくりと過ごすこともできます。花を植えて、利用者様と一緒に水をあげたり、世話をしながら季節感を味わっています。中庭にて夏祭り等の行事を行っており、ご家族様も参加していただき、楽しい時間を過ごせるように努めています。イベントはご利用者様・ご家族・近隣の方が触れ合える貴重な機会なので大切にしています。消防訓練も定期的に行っており、ご家族の参加や近隣の方へ協力をお願いしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は平屋の建物で各ユニットからは中庭に出られる造りになっており、利用者のくつろげる空間となっている。ユニット間は自由に行き来ができ、利用者職員は家族のような親しい関係になっている。管理者職員は理念に沿って、利用者が穏やかに自由で過ごせるように日々の暮らしを支えている。地域の情報を得て積極的に行事に参加し交流を図っており、事業所が開催する納涼祭にも多くの方の参加がある。医療面においても母体である協力医療機関と連携が取れており利用者、家族ともに安心感が得られている。職員も勉強会や研修会に積極的に参加しケアの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 菜の花

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)

氏名 武田 淳子

評価完了日 平成 24 年 6 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念は毎日唱和することで、職員一同、意味を理解し共有できるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 分かりやすい言葉で表現された理念は、毎日申し送り時に読み上げて職員全員で確認している。毎年の目標も決められており、理念に沿って利用者の日々の生活を支えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 災害時には近隣の方の協力が不可欠であり、協力依頼をしている。また定期的に幼稚園の訪問もあり、ご利用者の楽しみになっている。新聞も作成し、配布している。</p> <p>(外部評価) 自治会には入っていないが職員や家族から地域の情報を得て積極的に行事に参加している。近所の方が野菜等を持ってきてくれるような密な関係ができており、事業所が開催する納涼祭には地域の方の参加も多い。幼稚園との交流もあり、小学生の体験学習や高校生の実習も受け入れている。三味線等ボランティアの訪問もある。</p>	事業所は開設から10年を経過し、地域との交流が根付いてきている。市とも連携しながら、これまでの地域における介護拠点としての実績を活かして、よりいっそう地域に貢献する取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 菜の花便りを作成し、小中学校・郵便局・駅などにも配布し、ホームの理解や認知症に対する対応方法なども伝えるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 利用者・家族・地域の方・包括支援センターの職員な ども参加していただき、要望等意見交換を行い、 サービス向上に努めている。	
			(外部評価) 利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター及び 市の職員の参加を得て、同法人の小規模多機能の事業 所と合同で開催している。内容は事業所の状況報告、 勉強会や研修会の状況、意見交換等が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 連絡会にはなるべく出席し、交流を深めるよう努めて いる。	
			(外部評価) 運営推進会議には地域包括支援センターの職員に加 え、今年度から市の職員も参加し意見をもらって おり、良い連携が取れている。市主催の勉強会に管理者 が参加し、市からは認知症の講演依頼を受けて、協力 関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は身体拘束についての理解をしており、必要時 には説明をし、同意の下で必要最低限にしている。玄関 の施錠については外玄関のみ行っており、家族には理 解してもらっている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについてマニュアルを作り、管 理者や職員が研修会に参加するなど、正しく理解する よう取り組んでいる。玄関は施錠しているが、中庭に は自由に出ることができ、ユニット間も自由に行き来 ができる。利用者の状況に応じて拘束を行う場合は家 族の同意を得ている。外出時は安全のため必ず職員と 一緒に出かけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員はミーティングでも話し合い、理解している。言葉の虐待に関しても十分配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度等に関する資料は職員がいつでも見れるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には十分に説明し、納得の上行っている。解約時にも不安があれば相談も行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議で家族から要望があった場合、サービスを反映できるように話し合いをしている。家族が意見を言い易いように配慮している。	
			(外部評価) 定期的に担当者が利用者の状況を書面で知らせている。家族は週1回訪問に来る方が多く、話しやすいよう配慮している。運営推進会議でも意見を聞くなど、家族から意見や要望を聞く機会をできるだけ作り、出された意見は職員で話し合っサービス向上に活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者と職員は良好な関係が築けており、話を聞く環境ができています。ミーティングで職員の意見を聞き、必要であれば、代表者に伝えている。	
			(外部評価) 長く勤めている職員も多く、職員同士も連携が取れており、管理者に話しやすい雰囲気がある。毎月の会議で意見を出すことができ、出された意見は検討し反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員個々の面接や聞き取りなど職員の努力などを把握し、働きやすい環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修計画を立て、学ぶ機会を持てるように勤務にも配慮してくれている。また法人で研修費用の負担をしてくれている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 連絡会・勉強会への参加や他事業所への訪問を行い、サービス向上に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを開始する段階で本人と面談し、要望や困っていること・状態の把握をし、安心できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族と面談し、要望を聞き取り、職員が共有し、信頼 できる関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 心身・家族等の環境要因を見極め、必要なサービス を受けれるよう努めている。主治医の助言もあう。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者本位の生活が送れるように、個々の価値観を大 切にし、安心して寄り添える関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の意見や考えを尊重し、日々のケアに取り組ん でいる。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 面会時には、利用者の状況も伝える等職員も一緒に話 をする機会を設け、訪ねやすい雰囲気作りに努めてい る。	
			(外部評価) 利用者の今までの馴染みの関係を把握して、関係継続 を支援している。事業所での暮らしが居心地よく、新 たな馴染みの関係となってきた利用者も多い。馴染 みの場所への買い物等、希望に合わせて個別に支援 している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の感情や価値観を把握し、助け合いながら生活していけるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 併設している介護サービスを利用される方もおられるため、相談や支援に努める事ができている。入院等で退去された方も面会に行き、経過の把握に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 今まで生きてこられた環境や生活を知り、出来る限り、希望や意向に沿った生活ができるように努めている。	
			(外部評価) 利用者の担当職員だけでなく、全職員が日頃の生活の中で気づいたことや利用者との会話で得た情報を記録し、一人ひとりの思いや意向を職員会議等で話し合っ て、共有している。利用者へのケアに活かして実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人・ご家族様・知人の方にこれまでの生活歴などのお話を伺い、職員が共有出来る様努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの心身状態や能力を把握し、その人に合った生活が出来るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は本人、家族の意向を下に、介護職員やリハビリ等他業種の意見も取り入れながら作成している。定期的にモニタリングも行い、状態変化があれば、その都度検討している。	
			(外部評価) 利用者や家族の要望や意見を聞き、職員の意見も採り入れて計画作成担当者が介護計画を作成し、毎月モニタリングを行っている。3か月に1回見直しを行い、利用者の状況に合わせて変更もしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子を記録し、状態変化等あれば、職員で共有し、見直しをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 同じ法人内に小規模多機能型居宅介護事業所や介護療養型施設もあり、家族の意向も聞きながら、スムーズにサービス移行が出来る様配慮している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 小中学校の運動会や祭りなどの行事には参加し、楽しむよう支援している。催し時には声かけを行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に家族の意向を聞き、かかりつけ医の確認を行 なっている。必要であれば家族の協力も依頼し、受診 してもらっている。	
			(外部評価) 利用者の多くが母体の協力医療機関をかかりつけ医と し、週1回往診してもらっている。歯科と皮膚科の医 師の往診もある。緊急時は母体の協力医療機関と連携 が取れるようになっており、利用者も家族も安心感が 得られている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 母体である医療機関といつでも連絡できる体制ができて おり、常に情報交換を行い、共有している。利用者が 安心して適切な受診・看護が受けられるように支援して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 他病院への入院の際も面会をし、状態把握に努めてい る。病院関係者とも電話や訪問などで情報交換に努め ている。また近隣の病院の主催する勉強会にも参加 し、関係作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時から家族に説明を行い、方針を共有している。 緊急時には主治医の判断の下、入院等の措置をとる事 も理解してもらっている。	
			(外部評価) 入居時に事業所でできることを説明し、利用者や家族 の希望に沿って看取りをする方針としている。看取り の経験もあり、利用者の状態の変化に合わせてその都 度話し合いをしている。職員は勉強会や研修会に参加 しケアの向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は、緊急時の対応等について、勉強会に参加し、実践力を身につけるように努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回行なっている。(1回は消防職員派遣による訓練)夜間も想定し、職員の人数を減らした訓練も行っている。近隣の方にも協力をお願いしている。	
			(外部評価) 定期的に夜間を想定した訓練も行っており、地域の方の協力も得られている。運営推進会議でも避難訓練について話し合いを行い、参加者からの意見を活かしている。事業所として地域に協力できることを伝えている。災害に備えた備品の準備もしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 訪室の際のノックやオムツ交換時の声かけ・誘導方法等プライバシーに配慮しながら行なっている。言葉遣いにも十分に注意している。	
			(外部評価) 一人ひとりのプライバシーを尊重して支援を行っている。利用者の部屋に入る時は必ずノックし、トイレや入浴の誘導の仕方、オムツ交換時などにもさりげない配慮を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃の会話の中で、本人の思いを汲み取れるように努めている。利用者が意志を伝えられるような声かけを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースに合わせるように努めている。楽しく過ごせるように、趣味や何をしたいかなど会話の中で把握し、実践出来る様努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 生活にメリハリをつける為に、日中と就寝時は着替えをしてもらっている。頭髪にも気をつけ、定期的に散髪している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理の下ごしらえができる利用者には、手伝ってもらっている。食事中も会話しながら、楽しく食事が出来る様に努めている。	
			(外部評価) 献立は管理栄養士がバランスよく立てており、各ユニットで調理をしている。利用者の状態に合わせて食事の形態を工夫している。食事の時間は利用者の楽しみの1つになっており、完食される方も多い。水分摂取量もチェックして体調管理をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士がメニューを作成しており、栄養のバランスは摂れている。食事量などは健康状態や排便状況・体重の増減等を把握した上で行なっている。水分についても、お茶ゼリーにするなど工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 準備をしておく出来る方、全面的な介助が必要な方等、その方の力に応じたケアをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄のパターンを理解し、必要に応じてトイレ誘導やオムツ交換を行っている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して、排泄の自立にむけた支援をしている。自分でトイレに行ける方は3人程度で、ほとんどの利用者はオムツを使用している。利用者の中には家ではオムツ使用していたが、紙パンツになりトイレに行けるようになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を作成して、それを基に水分量や食事量などに気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望に応じて入浴出来る様にしている。拒否者には無理強いさせることなく、理由を聞き時間をかけて関わるようにしている。	
			(外部評価) 入浴は午後の時間帯で、週3回は入れるように支援している。必要に応じてシャワー浴も行なっている。利用者によってはその日の体調で入らない場合もあるが、無理強いせずに対応を変えたり日を変更するなどし、個々に応じた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の生活習慣を把握した上で、状況に応じ1人の時間や他者と過ごす時間を持てるようにしている。環境や室温等にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者が服薬している薬の作用を把握するようにしている。薬の変更があった際には必ず申し送りをしている。個々の薬情ファイルもあり、いつでも確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活歴や趣味などを家族・本人から聞き取り出来る限り楽しんでもらえるよう支援している。又、洗濯物たたみや調理の下ごしらえなど出来ることをお願いし、役割をもつことで張りのある生活が送れるように気を配っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 菜の花やさくらを見に行くなど季節を感じられるような外出支援を行なっている。又、外出が困難な利用者には中庭に出るなど、外気に触れる機会を持てるよう工夫している。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、地域の行事に参加したり近くへ買い物に出かけるなど外出を支援している。各ユニットから中庭に自由に出て、いつでも外気に触れ日光浴を楽しむことができる。お花見等には病院の大型車で、車椅子の方も一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の能力に応じてお金を所持されている方もおられ、職員はお金をもつことの大切さを理解している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 状況に応じて、本人が電話が出来る様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 中庭に季節の花を植え、利用者と水やりなど世話をしており、居心地の良い空間の一つとなっている。又、室温や光の調整に配慮している。	
			(外部評価) 共用空間は季節を感じられる花などが飾り付けられて、居心地のよい空間になっている。ユニット間の行き来もしやすく、各ユニットから自由に出られる中庭は、利用者にとって憩いの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 外出時の写真を飾ったり、1人でソファで過ごしたりと共有空間でも思い思いの過ごし方が出来る様工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 写真を飾ったり、自宅から馴染みのある家具を持ち込んでいただくなど、懐かしい雰囲気を作れるよう配慮し、安心して過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 居室は使い慣れた家具等が持ち込まれ、利用者の使いやすいように配置されている。季節の花や写真などお気に入りのものが自由に飾られている。掃除も行き届き、落ち着いて過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室の入り口にプレートを貼り、自室であると認識できるようにしている。危険なものは目につくところにおかないようにし、安全に生活出来る支援をしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873300291
法人名	医療法人 さくら会
事業所名	グループホーム 菜の花
所在地	東温市志津川 91-3
自己評価作成日	平成 24 年 6 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 7 月 23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関が併設の為、ご家族様からはとても安心するとの意見をよく聞きます。立地条件も良く、中庭にてゆっくりと過ごすこともできます。花を植えて、利用者様と一緒に水をあげたり、世話をしながら季節感を味わっています。中庭にて夏祭り等の行事を行っており、ご家族様も参加していただき、楽しい時間を過ごせるように努めています。イベントはご利用者様・ご家族・近隣の方が触れ合える貴重な機会なので大切にしています。消防訓練も定期的に行っており、ご家族の参加や近隣の方へ協力をお願いしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は平屋の建物で各ユニットからは中庭に出られる造りになっており、利用者のくつろげる空間となっている。ユニット間は自由に行き来ができ、利用者職員は家族のような親しい関係になっている。管理者と職員は理念に沿って、利用者が穏やかで自由に過ごせるように日々の暮らしを支えている。地域の情報を得て積極的に行事に参加し交流を図っており、事業所が開催する納涼祭にも多くの方の参加がある。医療面においても母体である協力医療機関と連携が取れており利用者、家族ともに安心感が得られている。職員も勉強会や研修会に積極的に参加しケアの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 菜の花

(ユニット名) やまぶき

記入者(管理者)  
氏名 武田 淳子

評価完了日 平成 24 年 6 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎日の申し送り等にて、当日の勤務者全員で運営理念の唱和を行い、理解・実践に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 分かりやすい言葉で表現された理念は、毎日申し送り時に読み上げて職員全員で確認している。毎年の目標も決められており、理念に沿って利用者の日々の生活を支えている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の方にもクリスマス会や納涼祭等のイベントに参加してもらえるように声かけを行なっている。又、清掃活動や祭り、学校行事にも参加している。地元の幼稚園からの訪問もお願いし、地域との交流を深めるようにしている。</p> <p>(外部評価) 自治会には入っていないが職員や家族から地域の情報を得て積極的に行事に参加している。近所の方が野菜等を持ってきてくれるような密な関係ができており、事業所が開催する納涼祭には地域の方の参加も多い。幼稚園との交流もあり、小学生の体験学習や高校生の実習も受け入れている。三味線等ボランティアの訪問もある。</p>	事業所は開設から10年を経過し、地域との交流が根付いてきている。市とも連携しながら、これまでの地域における介護拠点としての実績を活かして、よりいっそう地域に貢献する取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 入居者の方の日常の様子や認知症への対応方法などを記載した菜の花便り(新聞)を作成し、地域の方々にも郵送している。又学校行事や地域の行事にも参加し、理解を深めてもらえるよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 日常生活の様子や事業所での取組み等を報告し、意見を求めている。情報交換を行い、サービスの向上に努めている。又、災害・防災にも力を入れており、消防訓練での様子も細かく報告している。	地域住民の参加者が固定化され人数も少ないので、納涼祭に参加される地域の役員等に声をかけたり、議題にあった関係者に参加してもらう等、参加者の幅を広げて、さらなる活発な意見交換がなされサービス向上に繋がることに期待したい。
			(外部評価) 利用者や家族、地域住民、地域包括支援センター及び市の職員の参加を得て、同法人の小規模多機能の事業所と合同で開催している。内容は事業所の状況報告、勉強会や研修会の状況、意見交換等が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に地域代表の方や地域包括支援センターの方にも参加してもらっている。月1回開催されている介護支援専門員連絡会にも参加し、実情を把握し、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 運営推進会議には地域包括支援センターの職員に加え、今年度から市の職員も参加し意見をもらっており、良い連携が取れている。市主催の勉強会に管理者が参加し、市からは認知症の講演依頼を受けて、協力関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 防犯上外玄関のみ施錠している。運営推進会議でも意見交換を行っており、家族にも入居時に説明し、理解を得ている。 生命に関わる事等でやむを得ない場合は、医師の意見も取り入れ、家族の同意を得た上で最小限に行なっている。職員にも身体ケアについて正しい理解の指導を行っている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについてマニュアルを作り、管理者や職員が研修会に参加するなど、正しく理解するよう取り組んでいる。玄関は施錠しているが、中庭には自由に出ることができ、ユニット間も自由に行き来ができる。利用者の状況に応じて拘束を行う場合は家族の同意を得ている。外出時は安全のため必ず職員と一緒に出かけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法マニュアルの理解を深め、職員全員が意識を持ちケアに取り組んでいる。法人内でも勉強会を行い、理解に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修を通じて制度の理解をし、マニュアルを作成し、対応が出来る様に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の契約の際には家族に十分な説明を行い、理解・納得を得られた上で行なっている。改定の際にも十分に説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議での意見交換や匿名でのアンケート投函箱を設け、家族や外部の意見を取り入れるよう工夫している。	
			(外部評価) 定期的に担当者が利用者の状況を書面で知らせている。家族は週1回訪問に来る方が多く、話しやすいよう配慮している。運営推進会議でも意見を聞くなど、家族から意見や要望を聞く機会をできるだけ作り、出された意見は職員で話し合っサービス向上に活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日の申し送りや個人面談・月1回のミーティングなどで話し合い、個々の職員の意見を聞き入れることができるような機会を設けている。  (外部評価) 長く勤めている職員も多く、職員同士も連携が取れており、管理者に話しやすい雰囲気がある。毎月の会議で意見を出すことができ、出された意見は検討し反映させるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の面接や上司の意見も反映し、向上心を持てるよう職場環境・条件の改善に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修や勉強会の年間計画を立て、職員の知識の向上に努めている。職員の力量の把握をし、個々の職員にあった研修に参加してもらっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修を通じ、知り合った他施設の職員との意見交換や訪問し、情報交換を行なっている。近隣の医療機関が開催する勉強会にも参加している。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の話を聞き、信頼関係を築けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用希望の段階において、施設内の見学をはじめ、詳しく説明を行なっている。利用開始までに電話連絡等を行い、状況確認を行なっている。入居が決定した段階で要望等十分に話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の話しを聞く機会を作り、十分なアセスメントを行い、何を必要としているのかを聞き出すよう努めている。医療・福祉においても連携が図れるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人のできることをしてもらうことで、介護されているという一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共有することで暮らしを共にしているという意識を持つことで信頼関係を築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 菜の花便りや現況報告書を送付し、状況報告を行なっている。イベント開催時には参加してもらうよう声かけを行なっている。家族にも本人の状況を説明し、協力を求め、共に本人を支えるような関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者個々の馴染みの人や場所を把握して外出支援を行ったり、近況報告を行い、情報の共有を心がけ関係性が途切れないように努めている。	
			(外部評価) 利用者の今までの馴染みの関係を把握して、関係継続を支援している。事業所での暮らしが居心地よく、新たな馴染みの関係となってきた利用者も多い。馴染みの場所への買い物等、希望に合わせて個別に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の性格を踏まえ、感情や価値観を尊重しながら、利用者同士のコミュニケーションが図れるよう配慮し、助け合いながら、生活出来る様努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 施設の近くに自宅のある利用者が多く、契約終了後も母体となる医療機関を利用されている家族も多く、折にふれ相談や支援に努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) これまでの生活歴や環境を本人・家族・知人から聞き取り、職員間で情報を共有し、できる限り意向に沿った生活が出来る様努めている。	
			(外部評価) 利用者の担当職員だけでなく、全職員が日頃の生活の中で気づいたことや利用者との会話で得た情報を記録し、一人ひとりの思いや意向を職員会議等で話し合っ、共有している。利用者へのケアに活かして実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者との生活の中での出来事や家族等からの聞き取りにて、趣味や生活環境の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメントを行い、身体状態を把握した上で、申し送りやカンファレンス等にてその人に合った生活が送れるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人・家族の話しを聞き、できる限り要望を取り入れている。介護職員や他職種の意見も聞き取り、定期的にモニタリングを行い、作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の要望や意見を聞き、職員の意見も採り入れて計画作成担当者が介護計画を作成し、毎月モニタリングを行っている。3か月に1回見直しを行い、利用者の状況に合わせて変更もしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子を細かく記録する様心掛けている。気付いたことがあれば、その都度話し合っている。申し送りやミーティングを行い、情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 同法人内に小規模多機能型居宅介護事業所や介護療養型医療施設があり、本人・家族の状況や本人の状態に応じて移行出来る様に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月に1度幼稚園の来所による定期的な交流があり、利用者と共に楽しんでもらえるように努めている。地域での祭りや運動会にも参加している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居時に家族の希望を聞いて、かかりつけ医と主治医 の確認を取っている。主治医は隣接の院長を希望され る方が多い。他病院とも連携をとっており、専門医 (皮膚科)の往診ができる。	
			(外部評価) 利用者の多くが母体の協力医療機関をかかりつけ医と し、週1回往診してもらっている。歯科と皮膚科の医 師の往診もある。緊急時は母体の協力医療機関と連携 が取れるようになっており、利用者も家族も安心感が 得られている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) その都度情報交換を行い、入居者が適切な受診・看護 が受けれるように医療機関との連携を図っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 他病院への入院・退院の際も面会し、病院関係者との 情報交換に努めている。隣接の病院関係者とは、常に 行き来があり、関係作りはできている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に家族に説明し、方針を共有している。緊急時 には主治医の判断にて入院の措置をとる事も理解して もらっている。	
			(外部評価) 入居時に事業所でできることを説明し、利用者や家族 の希望に沿って看取りをする方針としている。看取り の経験もあり、利用者の状態の変化に合わせてその都 度話し合いをしている。職員は勉強会や研修会に参加 しケアの向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 内部の勉強会はもちろん外部の講習会にも参加し、ミーティングにてフィードバックしている。消防職員による救命救急講習を年1回受講している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防訓練を行っている。地域の方にも協力を呼び掛けている。	
			(外部評価) 定期的に夜間を想定した訓練も行っており、地域の方の協力も得られている。運営推進会議でも避難訓練について話し合いを行い、参加者からの意見を活かしている。事業所として地域に協力できることを伝えている。災害に備えた備品の準備もしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉遣いには十分気をつけている。訪室の際にはノックや声かけを必ず行い、プライバシーにも配慮している。	
			(外部評価) 一人ひとりのプライバシーを尊重して支援を行っている。利用者の部屋に入る時は必ずノックし、トイレや入浴の誘導の仕方、オムツ交換時などにもさりげない配慮を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 仕草や表情を見極め、本人の思いを汲み取れるよう努めている。本人が自己決定出来る様時間をかけて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースにあわせるよう配慮している。どのように過ごしたいか等希望を聞くようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 1日の生活の中でメリハリがつくように、就寝前には着替えをしてもらうように努めている。外出時には普段とは違った服装をするなどおしゃれが出来る様支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりの好みを知り、声かけしながら楽しく食事が出来る様努めている。なるべく力を活かせるよう食事形態にも配慮し、自力摂取を促しできない部分を手伝うようにしている。  (外部評価) 献立は管理栄養士がバランスよく立てており、各ユニットで調理をしている。利用者の状態に合わせて食事の形態を工夫している。食事の時間は利用者の楽しみの1つになっており、完食される方も多い。水分摂取量もチェックして体調管理をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士が献立を考えており、栄養バランスは良い。減塩等入居者の状態に応じて、摂取できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 見守り・声かけ・介助等一人ひとりの力に応じ、ケアを行なっている。毎食後行い、清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 尿意・便意のある方には出来る限りトイレで排泄出来るよう支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握して、排泄の自立にむけた支援をしている。自分でトイレに行ける方は3人程度で、ほとんどの利用者はオムツを使用している。利用者の中には家ではオムツ使用していたが、紙パンツになりトイレに行けるようになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェックを行い、水分摂取や食事量等、個々の症状に合わせて自然排泄が出来る様支援している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間や曜日等できるだけ希望に添えるよう努めている。	
			(外部評価) 入浴は午後の時間帯で、週3回は入れるように支援している。必要に応じてシャワー浴も行なっている。利用者によってはその日の体調で入らない場合もあるが、無理強いせずに対応を変えたり日を変更するなどし、個々に応じた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の生活リズムを把握し、室温や環境に配慮しながら、安心して休息できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の薬情や薬手帳の確認がいつでも出来る様になっており、職員も薬の理解に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみや花の水やり等できる事を手伝ってもらっている。楽しみごとなどを把握し、遊ビリや外出・行事などで気分転換を図れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族にも協力してもらい、買い物・ドライブ等出かける機会を作っている。地域の行事（運動会・祭り）にも出来る限り参加している。外出困難な利用者には中庭に出てみるなど、外気に触れる機会を作っている。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、地域の行事に参加したり近くへ買い物に出かけるなど外出を支援している。各ユニットから中庭に自由に出て、いつでも外気に触れ日光浴を楽しむことができる。お花見等には病院の大型車で、車椅子の方も一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族とも連絡を密に行ない、本人の能力や希望に応じて、所持や管理をしている。事情により預かり金がある利用者には、家族に収支報告をしサインをもらうようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 定期的に家族に状況を手紙や電話で報告している。本人の希望があれば状況に応じ電話をかけ、会話ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居心地良く過ごせるよう、テレビやソファの配置・照明や室温など配慮している。中庭やフロア等にもくつろげるよう椅子を配置している。壁には入居者の写真を掲示しており会話が弾むような支援している。	
			(外部評価) 共用空間は季節を感じられる花などが飾り付けられて、居心地のよい空間になっている。ユニット間の行き来もしやすく、各ユニットから自由に出られる中庭は、利用者にとって憩いの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアや中庭に椅子やソファを配置し、居場所の工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者の馴染みのある物や家族との写真を飾る等居心地良く過ごせるような空間作りに努めている。	
			(外部評価) 居室は使い慣れた家具等が持ち込まれ、利用者の使いやすいように配置されている。季節の花や写真などお気に入りのものが自由に飾られている。掃除も行き届き、落ち着いて過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) リハビリ職員との連携を図りながら、「できること」「わかること」を把握し、出来るだけ自立した生活が送れるように努めている。	